

運動会、心に残る1日に ～一生懸命の中に感動あり～

運動会シーズンになりました。8日の弓削高校に引き続き、昨日は弓削・生名両小学校の運動会が開催されました。弓削中学校の運動会も間近に迫ってきました。いつもは人影が少ないのに、運動場にいる人の数がしだいに増え、テントが少しずつ立ち、毎時間音楽や歓声が聞こえるようになると、いよいよ近づいてきたな、と気分も盛り上がってきます。今年は小学校と日程が近かったため、余計にそう感じるのかも知れません。いずれにしても、あと1週間です。



以前、ある先輩教員からお聞きした話を紹介します。

私は小学校の頃、運動会が大嫌いな子でした。一生懸命走ってもビリから2番目。それは足の不自由な子がいたからです。私は、完走できればまだましな方で、どこかで転げたり、障害物の平均台から転げ落ちたり……。そんなわけで、毎年毎年運動会が近づくと、高熱でも出て運動会に出られなくなればいいのにと、大雨が降らないかなどか祈っていた子なのです。それでもどうにか休まず頑張れたのは、自分の後ろをいつも走っていた、少し足が不自由な子の笑顔のおかげかも知れません。その子は生まれつき足が悪く、片方の足を引きずるように走るのですが、どんなにみんなから遅れても、これ以上ないような幸せな笑顔で、一生懸命最後まで走りぬくのです。不思議に思った私は、その子にたずねたことがあります。「運動会っておもしろい？」と。するとその子は「ウン、みんなと同じことができ、みんなが協力して必死に頑張っている中に、自分がいることがうれしい。」と答えたのです。

私は、何気なく聞いたその言葉を今でも忘れることができません。そして、自分がどんなに走るのが遅くても、逃げずに一生懸命頑張ろうと心に誓ったのです。

頑張る姿が感動につながる！

運動会は記録会ではありません。勝ち負けが問題ではないのです。出場する競技はどうやったらうまくいくのか対策や作戦を考えたり、時間を見つけて仲間と練習したり、チームメイトの苦手な部分を他の人がカバーしたりなどを、一生懸命考え、一生懸命協力し、一生懸命努力する。その一生懸命な姿に感動が生まれ、結果以上のものが残ると思うのです。また、競技することだけではなく、入退場の一步一步も、係の仕事も、準備・片付けも、応援することも、一つ一つが感動につながる大切な「出番」なのです。



詩人、相田みつおさんの作品に『感動とは、感じて動くと書くんだなあ』という詩があります。心を動かすのは、一人一人の一生懸命に頑張る姿です。競技している人も、応援している人も、観戦している人も、誰もが心を動かされる、そんな運動会を、ぜひみなさんの手で創り上げましょう。



